

行政事業レビューシート (環境省)

予算事業名	外来生物対策費	事業開始年度	平成16年度	作成責任者		
担当部局庁	自然環境局	担当課室	外来生物対策室	室長 牛場 雅己		
会計区分	一般会計	上位政策	生物多様性の保全と自然との共生の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律第2条、第5条、第22条、第27条及び第28条	関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略2010(H22.3.16閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(以下、外来生物法という。)の実効性を確保し、侵略的な外来生物によるわが国の生態系等に係る被害を低減し、新たな被害の発生を防止する。また、国内におけるカエルツボカビ等両生類への感染症の実態を把握することにより、在来の両生類の効果的な保全措置の検討する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①外来生物法に基づく規制対象となる特定外来生物等の選定、②外来生物全般に係る侵入・生態及び流通実態等の調査・整理及び情報提供、③外来生物法関連業務に必要な省内専用の「外来生物飼養等情報データベースシステム」の保守点検・運用、④カエルツボカビ等の実態把握及び情報提供。					
実施状況	①シママンガースの特定外来生物指定に係る検討作業を行った。②港湾等で発見された外来生物及び外来生物と思われる生物の同定支援を計21件行い、種類名証明書に基づいて特定外来生物等の輸入情報を計2647件整理した。また、外来生物の侵入・定着の実態把握調査を計10箇所で行った。特定外来生物の国内における分布状況の図面化を計47種類について実施したほか、外来哺乳類等の同定支援マニュアルの作成及びアリ類の非意図的導入に係る対策状況の情報収集を行った。③外来生物飼養等情報データベースシステム(外来DBS)の保守点検・改修を行った(業務の中で外来DBS及びマルハナPGについて追加又は改修したプログラムの規模(追加・修正したプログラム行数)は17485Stepであった)。④合計35箇所より175サンプルを収集し、カエルツボカビDNA検査を実施し、20の陽性サンプルを検出することによって、国内の実態把握が前進した。さらに、カエルツボカビ症等の両生類の感染症について、専門家に対するヒアリング、文献に基づく情報収集を行った。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	134	88	55	56	68
	執行額	128	65	43		
	執行率	96%	74%	78%		
	総事業費(執行ベース)	128	65	43		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	外来生物飼養等情報データベースシステム改修等業務では、同システムの改修について、請負業者と年7回の定期打合せ等を設け、業務に係る具体的指示や進捗確認を行うと共に、同システムを日常的に使用する全国の地方環境事務所職員から適宜問題等の意見や要望を集約し、請負業者への指示に生かして、適正な業務の執行を確保している。外来生物飼養等情報データベースシステム改修等業務以外は、いずれも外来生物やカエルツボカビ等の諸問題に係る調査業務である。職員と請負業者間でキックオフミーティングを始めとする定期的な打合せを進捗状況に応じて適宜実施して、業務に係る具体的指示や進捗確認を行うと共に、得られた成果は報告書として基本的に環境省ウェブサイトや国会図書館を通じて、広く国民に情報公開している。				
	見直しの余地	外来生物の侵入や定着、分布の拡大は引き続き起こっており、規制対象となる特定外来生物の指定や調査等の対策を拡大して展開する必要がある。特定外来生物の適正な管理を確保するために飼養等許可やそのデータの管理は今後も継続していく必要があり、またその過程で生じた課題やニーズに合わせて外来生物飼養等情報データベースシステムも適宜改修していく必要もある。カエルツボカビ症やラナウイルス症等の国際機関が注意を促している両生類に係る新興感染症についても、国内でその発生がある又は危惧される限り、これらの感染症の実態把握や対応のための予算措置が必要である。従って、業務自体を廃止することはできないものの、引き続き極力競争性のある契約を実施すると共に、事業の進捗状況を随時把握し、業務の効率化に努めるものとする(なお、その一環で平成20及び21年度には前年度に比べ予算の縮小を図ってきたところ)。				
予算・監視・所効見率	一部改善 (外来生物対策の重要性については、十分認められるところであるが、執行状況を勘案し、予算規模を縮減すべき。)					
補記						

環境省  
43百万円

業務の企画・指導監督

【請負:総合評価落札方式】

A.(財)自然環境研究センター  
17百万円

外来生物問題調査検討業務の請負  
(①/②の一部)

【請負:一般競争入札】

B.(株)プレック  
3百万円

外来アリ等侵入防止対策情  
報収集業務の請負

【請負:少額随意契約】

C.(財)自然環境研究センター  
1百万円

セイヨウミツバチの日本国内の生  
態系に及ぼす効果に関する調査

【請負:随意契約】

D.富士通  
16百万円

外来生物飼養等情報データベー  
スシステム改修等業務の請負(③)

【請負:一般競争入札】

E.(財)自然環境研究センター  
4百万円

カエルツボカビ等実態把握  
調査検討等業務の請負  
(④の一部)

【請負:少額随意契約】

F.(独)国立環境研究所  
1百万円

カエルツボカビ感染情報  
収集業務の請負  
(④の一部)

【請負:少額随意契約】

G.(独)製品評価技術基盤機構  
1百万円

カエルツボカビ菌分離培養  
等検討業務の請負  
(④の一部)

資金の流れ  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位:百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロック  
 ごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。使  
 途と費目の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A.(財)自然環境研究センター			E.(財)自然環境研究センター		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	外来生物問題調査検討業務	17	雑役務費	カエルツボカビ等実態把握調査検討等業務	4
計		17	計		4
B.(株)プレック			F.(独)国立環境研究所		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	外来アリ等侵入防止対策情報収集業務	3	雑役務費	カエルツボカビ感染情報収集業務	1
計		3	計		1
C.(財)自然環境研究センター			G.(独)製品評価技術基盤機構		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	セイヨウミツバチの日本国内の生態系に及ぼす効果に関する調査業務	1	雑役務費	カエルツボカビ菌分離培養等検討業務	1
計		1	計		1
D.富士通(株)			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	外来生物飼養等情報データベースシステム改修等業務	16			
計		16	計		